

セイリョウライン

高塩基・蒸発しにくいエンジンオイルで環境負荷軽減

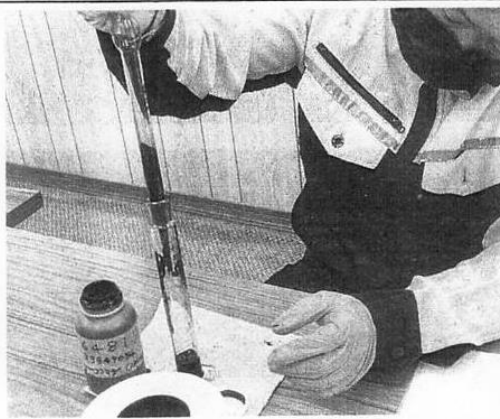
セイリョウライン（幣旗貴行社長、愛知県大府市）では、塩基価が通常よりも高く、蒸発しにくいエンジンオイルを使用することでオイル交換回数を減らし、コストや廃油量を削減。環境負荷の軽減にも寄与している。

同社が使用するエンジンオイルは、オプティ（猪野栄一社長、三重県三重郡川越町）が開発元のディーゼルエンジンオイル「Power 1D」。以前はメーカー推奨距離に応じてオイル交換をしていたが、Power 1Dに変えてからは

塩基価2・0を目安に交換。導入から約3年、専用の計測法でデータをとってきた同社によると、長距離を走る大型車で約9万キロの走行が可能となった。

「蒸発しないので継ぎ足しの必要がなく、不純物の付着による車両トラブルも抑えられる。さらに走れる距離が伸びて交換回数が減った」と話すのは、計測に携わってきた業務部の幣旗孝司次長。一般の製品に比べて価格は1・5倍ながらも、長距離については使用量が半分以下になり、環境への配慮を

実現。また交換回数が・費用の低減が車両稼働時間の向上や人件費の削減につながるなど、総コストが半分になる



エンジンオイルの塩基価を測定する様子

「とSDGsの観点からも導入を推奨。グループ会社のセイリョウ（幣旗良太社長、同）で販売促進を図っていく。」

（富田 香）